

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200630		
法人名	社会福祉法人 福岡ケアサービス		
事業所名	グループホーム 安養 (西棟、東棟)		
所在地	福岡市西区生の松原3-13-15		
自己評価作成日	平成26年2月8日	評価結果確定日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4071200630-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成26年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立つ南欧風の建物、日中は開閉式の屋根から日が降り注ぎ日光浴が楽しめます。施設には大型のプラズマクラスターや居室・リビングには加湿器を設置しており空気清浄や臭いの無い、入居者が心地良い時間が過す事が出来る様環境整備に努めています。なお本年度はインフルエンザや風邪症状の方が居られませんでした。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭を中心に居室があり、明るい日差しが入るリビングは、この時期、手作りのひな人形を飾って、落ち着いたある家庭的な雰囲気である。利用者の尊厳を尊重する事を理念の一つとし、職員はその思いを常に持って利用者に接していた。平均して要介護度4の利用者に対して、求められる質の高い介護ケアが行える事を目標に、職員たちを育てる取り組みを法人全体で共有している。外部研修、内部研修も定期的に行い介護計画や日々の記録も適切である。同一敷地内に介護事業所、渡り廊下でつながれたケアハウスから、利用者に合わせて調理し、盛りつけられた食事が運ばれていた。配膳や後片付けなど利用者一人ひとりの残存能力を活かしたケアを実践している。敬老会をケアハウスの食堂で行い、地域の方々との交流の場として提供していた。感染防止の為に空調管理をして、今年インフルエンザに罹った方もおらず成果を上げている。職員の対応も良く、利用者に寄り添うケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも確認出来るように掲示し、理念に沿ったサービス提供を心掛けている。	利用者の尊厳を尊重することを理念の一つとして、いつも理念を念頭において、管理者と職員で日々のケアに取り組んでいる。西棟と東棟ごとに玄関があり、理念を提示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域の方々の会合に施設の一部の貸出をしたりしている。	近隣の中学校区の夏祭りには、職員は屋台を出したり、元気な利用者は、盆踊りに参加するなど地域交流ができるように心がけている。ケアハウスの食堂を開放して、町内の敬老会を行ない地域の方々との交流を繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者状況など報告を聴いて頂いている。また不定期ではあるが認知症について話をする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事報告・課題について話し合いの場を設け、ご家族の意見を取り入れている。	会議には毎回10人ほどの家族や民生委員、町内会役員の出席がある。事業所から居室に置く加湿器購入の依頼、家族の提案で居室の年末の大そうじなどの協力もあり、相互に生活環境を整える努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ関連部署へ連絡を行っているが密までには至っていない。	最近では困難事例がほとんどないが、地域包括センターに行くときには事業所の実情を伝えて、地域の情報がわかるようにしている。近隣には、利用者の顔を覚えて声をかける方もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動や勉強会を通じて取り組んでいる。今回再確認にてスピーチロックについて改めて勉強会を実施。玄関については現在施錠している。	職員は、言葉の使い方を意識して普段から接している。施錠してない居室扉の上方の4つのガラスの小窓は、夜間の様子がわかるよう、一つだけ毛糸などで手作りの窓を作りプライバシー配慮されていた。玄関は自動施錠だが、利用者の外出を妨げないために行動を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などを行い、何が虐待に当たるか等職員へ確認、指導にて虐待の無い施設作りに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修にて学ぶ機会を設け、必要な時管理者を通し支援出来るようにしている。	現在は成年後見制度を利用されている方はいない。今後のために制度の研修を、法人全体で各事業所ごとに職員が出席する計画を作成し、実施された記録もあった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書にて説明を行い、改定の際は文書や運営推進会議・来苑された時など説明し理解を頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日頃来苑の際近況を話したり意見を聞いたりしている。	各ユニットの玄関に意見箱を設置している。家族の訪問時には、日頃の様子が報告されていた。年に一度の家族会の開催は、50人ほどの出席があり、家族からの意見や要望を聞き、今後もよりよい家族交流が行われるように話し合われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常からヒヤリング及びミーティングで職員の意見を聴く場を設けている。	日頃から管理者に職員から直接話しやすい雰囲気である。設備面では、浴室の脱衣場を片づけて、車いすの利用者への介護をしやすい、広く使えるように工夫されていた。廊下の照明は利用者への配慮から明るくするよう職員から提案されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告書へ記入し面談を行い、本人の希望や意見を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	経験や年齢などに関係なく選考を行っている。また入職後も職員の能力が発揮出来るように相談・援助を行っている。	入職年数が長い職員もいる。職員どおしのコミュニケーションもあり、自由に意見交換できる。採用時には、経験年数だけでなく、質の高い介護ケアを一緒に目指していける人材を考慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	勉強会を行い、人に対する尊厳や人権尊重について取り組んでいる。	ユニットごとに毎月ミーティングを行い認知症ケアの勉強会を開いたり、内部研修会をして、理念に掲げている尊厳を尊重することの理解を周知するように取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体研修や部署内研修・ミーティング内での勉強会などで職員の資質向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や交流会へ参加させネットワーク作りが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を行い、要望や不安を確認しサービス提供を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安を確認し、入居後も近況報告や意見を聞く機会を設け関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	健康状態や精神面を把握し、他のサービス利用も視野に入れた相談援助を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、日々の生活の中で助け合う関係構築に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等本人様と一緒に参加頂いたりし、状態を知って頂きながら共に支えて行く関係を心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人様に関係の深い方が気兼ね無く来苑出来る様心掛けている。	自由に訪問できる環境作りを実践し、利用者の家族は、週に、何度も訪ねてきている。以前、施設の近くで、事業をされていた方が入居されて、他の利用者とも顔見知りである。利用者同士の関係がうまくいっており、和んでいた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮しながら、共に活動したり交流を通じて良好な関係が出来る様援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスや相談援助等積極的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人様の要望を尊重し、また日常生活の中で本人様に合った暮らしの提案を行っている。	家族の訪問時には、現在の状況やご家族の意向、要望等を報告をしている。日頃の気づき等も介護記録に記入している事を確認した。職員の話し合い中で反映し、利用者に合わせて介護計画を作成している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活履歴や本人様・家族よりヒヤリングにて情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化を見逃さないようバイタルチェックや観察記録の共有を行い現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人様・職員と情報交換を行いケアプランに生かしている。また入退院や状況変化があれば都度に直しを行い繁栄させている。	定期的に計画の見直しを行い、短期目標の評価を介護計画の中に反映している。利用者の状態によっては、その都度見直しをしている。入退院時の家族からの相談、要望を職員と共に話し合い、利用者主体の安心した暮らしができるように努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や伝達ノートで職員間での情報共有しながら実践し計画の見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況を把握し場面に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や職場体験・園児交流など地域との関わりを定期的に行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり24時間相談もできるよう取り決めている。医療機関とは定期的にミーティングの場を設けている。	医療機関の看護師、ソーシャルワーカーと話し合い、病院側、現場側からの意見を出し合い、適切に医療が受けられるように努めている。職員は、家族の不安な気持ちに耳を傾け、本人を支えていくための協力関係を築いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を伝え対応や受診など指示を貰い適切な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け医師や看護師との情報交換や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各方面と連携しながら、家族や本人様へ援助や相談を退去後も行うようにしている。	現在、看取りは行われていない。利用者が入退院される時など、家族の方から相談を受ける事がある。主治医や看護師との話し合いに同席し連携を図っている。家族や本人の意思を取り組んで、安心して暮らせるように取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルや研修にて必要なスキルを身に付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルや研修へ参加し対応できるようにしている。また町内の会合に参加している。	火災避難訓練では、年に2回、夜間対応、日中対応を想定して併設するケアハウスと合同で行われている。ご家族から希望があり、家族だけの災害対応の連絡体制が出来ている。2月末には心肺蘇生法(AED(自動体外式除細動器))の研修も行われる予定である。	避難訓練は、隣接されているケアハウスと合同で行われているが、地域の方の参加又は、見学のお知らせをする事で地域との協力体制の構築に向けて取り組んでいくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や振る舞いに注意し対応を行っている。	トイレ誘導では、さりげなく耳元で丁寧に声を掛け、トイレに誘導し、ドアをきちんと閉める。言葉遣いや対応に配慮があり、利用者の気持ちがくみ取られ、尊厳が守られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に希望を優先した選択出来るような声かけを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや意思を尊重しながら支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れや乱れがないよう気をつけ、外出や行事・普段着など場面に応じたオシャレを出来るよう援助を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房にて対応、会話をしながら楽しいふいんきを提供している。下膳や後片付け一緒に行うようにしている。	隣のケアハウスに食事を取りに行ったり、下膳や後片づけ等、その人の能力に応じて職員と一緒に対応し支援している。ミキサー食等、利用者に合った食事を提供している。職員が利用者の横に座り、他の方にも目を配りながら見守り、声をかけている。隣の方と楽しく会話をしながら食事をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事量のチェックを行い、必要に応じて介助また声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて器具を使い分け口腔の確認を行い清潔に努めている。異常があるときは訪問歯科に相談している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやしぐさを把握し、トイレでの排泄が出来るよう誘導や促しを行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの排泄の時間を確認している。極力、紙オムツを使用せず、布の下着を着用している事で皮膚トラブルの改善につなげている。トイレ内にパット等を置いたり、車椅子の後ろに替えの下着が取りだせる準備をしていて、利用者から離れないように工夫をし、対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ、体操を行う様にしている又車椅子の方にも職員と個別に体を動かす時間を取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の状況に合わせて、休息や汚染した時など他希望があれば入浴を行っている。	入浴時に、体調が悪いときには、再度バイタルチェックを行い体調管理もできている。希望があれば自由に入浴ができ、菖蒲、ゆず、バラなどをお風呂に入れて季節感を楽しんでいる。夕食後に入浴する事で利用者の安眠につながっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況を見てベッドでの臥床やソファーでの休息を取り入れている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を見ながらセットを行い、変更があれば日誌や受診記録へ記載し情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の経歴や生活歴の情報を元に日課を持って頂き職員と一緒にいるなどしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年数回家族参加の行事や地域行事への参加また園児が苑へ来られ交流する場を設けている。	初詣、山笠、紅葉狩りなど車で外出をしている。天気の良い日には、施設の周りで、静かな住宅街に散歩に出かけている。戸外にでるのが困難な利用者は、中庭で日光浴をしている。年に1回、大きな行事として家族も参加して外出をする企画もあり、実行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては全介助を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は本人様へお渡しするが本人様から返事を書くことや電話の希望は無いため現在は行っていない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや温度調整など快適に過ごせるように配慮している。	訪問時はひな祭り前で、利用者が折り紙でひな人形を職員と一緒に折り、リビングに飾っている。各ユニットごとに大型プラズマクラスター(空気清浄機)を設置し、感染対策や防臭対策に効果を上げている。インフルエンザの感染者がいない実績を残している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごせるよう居室へ案内したり席配置を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人様が使っていた思い出の品・馴染みの物を置き環境を整えている。	利用者の居室には孫の写真や使用していたソファなどをおき、居心地よく過ごせるように配慮している。遠方の家族が利用者と一緒にゆっくり過ごせる部屋があり、簡易ベットを設置して泊まる事ができる。居室に置く家電は発火しないか確認したり、コンセント周りのほこりを防ぐようにして居室から火災を起こさない配慮をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			